

校長室だより
NO. 7
令和元年5月13日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

大運動会のスローガン「信じよう わたしのやればできる力」

本校の5月は、5月25日（土）の大運動会に向けた活動が中心となっています。その大運動会は、授業の一環として体育の授業等での取り組みの学習発表の場と考え、競技・演技・応援とその練習を通して、子どもたちの体を鍛えるとともに、学級での子どもたちの協力性を育てることなど、心身の成長をねらっています。

先週より練習は始まり2週目に入りました。ご家庭でも話題になっていることと思います。是非ともご支援をいただければ幸いです。それでは、本年度の大運動会の重点をお知らせします。

☐ 5・6年代表のMAXの子どもたちによるスローガン作成とそれに向けた取り組み

このスローガンづくりは、5・6年代表のMAXの子どもたちの活動の恒例になってきました。そして、本年度も大運動会のスローガンを作成してくれました。これは、特に高学年の子どもたちの大運動会に向けた気持ちを聞き取り、それをうまく表現しました。そのスローガンは、次の通りです。

「信じよう わたしのやればできる力」

この「やればできる力」とは、大運動会の1つ1つの競技であり演技であり応援に向けたものであることは言うまでもありません。また、その中での一人一人の目標に向けた挑戦でもあります。その目標は、競技としては順位の上位を力を合わせて目指すものであり、演技としては達成感であり、応援としては協力の喜びにつながります。そして一人一人の充実感にもつながっていきます。特に、その目標を高く掲げ、難しいと言って、はじめから自分はできないとあきらめるのではなく、自分ならできるんだ、友達と協力してやり遂げるんだという気持ちをしっかりと持つことが大切で、そこに一人一人の成長があると思うのです。



大運動会の練習風景(5・6年)

このスローガンは、大運動会だけではなく、これからの子どもたちの生活全般にも、将来のことにも結びついていきます。だから、今の自分自身の「チャレンジ」が大切なのです。そんなことを一人一人に感じさせてくれ、これからの明るい夢や希望を持たせるすばらしいスローガンと思います。

このスローガンについて、代表（MAX）の子どもたちが、看板を書き、先生たちの協力もあり校舎に取り付けられました。7日（火）のお昼の放送で、6年の代表（MAX）の子どもたちから全校に、スローガンの1つ1つの言葉の意味と、その思いの説明がありました。このように代表の子どもが、全校の子どもたちに大運動会に向けてがんばって盛り上げていこうという意識で行動してくれたことは、とてもうれしいことです。これが、全校に広がり、このスローガンの意味するものが、子どもたちの心として浸透していく大運動会にしていきたいと考えています。

図 体育科等の授業で学習した成果を発表する取り組み

大運動会では、体育科等の授業での学習発表の場と位置づけています。本番までの練習は、授業時間を使うことから、その時間のすべてが個人や学級集団の成長をねらう活動につながるものとしています。前述したスローガンからも分かっていると思います。子どもたちの競技・演技・応援等に、それぞれの目標を持った姿を求めています。次が主な内容です。

- ◇ 開・閉会式の入場行進と準備・整理体操のラジオ体操
- ◇ 徒競走・リレーでの走りどリレーのバトンパス
- ◇ リズム体操・集団演技・組体操
- ◇ 色別対抗での演技と応援



大運動会の練習風景(3・4年)

まず、開・閉会式の入場行進は、学年のねらいを明確にした、元気のよい堂々とした行進ができるようにします。特に手の振りや顔の表情、視線等、演技として真剣さが伝わるものを目指します。また、準備・整理体操のラジオ体操は、1つ1つの体操の意味を明らかにして演技種目としていきます。行進・ラジオ体操ともに1年から6年まで同じ演技をしますので、学年が上がるにしたがい成長した姿を見ていただきます。6年は入場行進・ラジオ体操も学級対抗として取り組んでいます。

2つ目の低学年の徒競走と中・高学年の学級対抗リレーの走りどバトンパスは、まさに体育科の学習発表です。特にリレーのバトンパスは、速さを求めた息の合った妙技を求めます。学級で高度なバトンパスを目指して挑戦する姿が楽しみです。

3つ目の学年の演技は、高学年では「心ひとつ」をテーマに、ばらばらであった集団が「一人一人のやればできる力」を結集させていく姿を、組体操として動きを合わせる美しさとして表現し、技の完成度の高さを求めます。中学年の集団演技は、「冒険」をテーマに「ウィーゴー」「空扉」の曲に合わせて、速いリズムの中で布を使った表現運動を行います。リズムの変化のある動きで、個人と集団の隊形移動の美しさを表現します。低学年のリズム運動は、1年は「パプリカ」の曲に合わせて、カラー手袋を使った集団演技で、手足の動き、表情のめりはりをつけて体全体を使った表現をします。2年は「スマイル」の曲に合わせて体を大きくいっぱいにかし、友達と動きをそろえて楽しく表現します。それぞれの学年に応じた表現豊かな演技を期待したいものです。

4つ目の色別対抗の応援は、それぞれの競技について、縦割りの組別で得点を競う中で、学年を超えた意識の高まりをねらいます。例えば、上学年の競技で同じ組の上級生のがんばりを下級生が応援をする姿が期待できます。競技や演技に加えて、応援の工夫を通して、気持ちを1つにして努力する姿を求めたいものです。

なお、2年が5学級、3年が3学級になりましたが、ベア学級交流の関係を大切にしながら、色別対抗での競い合いを継続します。学級の割振りについて、「色別対抗の部」での色別対抗リレーは2年5組は「4組チーム」、3年3組は「3組チーム」と「4組チーム」に分けます。また、赤・白に分かれる帽子取り、竹取りは、2年5組、3年3組を赤・白に分けて競い合います。「学級対抗の部」での学級対抗リレー(3～6年)、競遊(1・2年)は各学級で競い合います。